



平成23年6月18日
川崎市立柿生中学校内
柿生郷土史料館 情報・研究誌
第37号

柳田国男が戦後、社会科教科書の 川崎北部への思い
編集を手掛けたわけ
—— 西生田小学校での実践 ——



(柳田国男)

の小学校にお勤めでした箕輪敏行氏との出会いがあり、成城学園にお勤めで生田にお住まいの白井緑郎氏との交流もあり川崎北部との関係も深いものがあったのではないかと思います。

しかし、柳田がこの地に心から惹かれたのはこれらの人間関係もさることながら川崎北部に根付き継承されている伝統と文化に深い思いを寄せられていたのではないかと思います。

柳田の手掛けた西生田小学校で行なった社会科教科書の編集作業にともなう「社会科カリキュラムと単元展開の一例」を見ると、それぞれの地域で培い育まれてきた郷土文化をベースにした学習展開例は実に内容の濃いものでした。

小学校3年の教科書に記載される『先生と父兄の方へ』の中にこんな記述があります。『日本各地の人たちが営んでいる郷土生活の中から、児童が直接に経験しうる教材をとり、それを単純化し、興味深く配列しました』『教材はできるだけ日本民族の文化的発展のなかから選ぶようにしました』など民俗学者らしい視点で考えています

柳田の教育観は『疑問をもたせ、賢い判断力を養成する教育の必要性』説き、他国の物まねでない自国の歴史や民俗伝統に根ざした社会の建設を考えたものでした。

柳田が西生田小学校で始めた社会科教科書の編集は、まさに彼が思い描いていた日本の文化と伝統が都心から1時間もしない川崎北部のこの地に生きていたことへの喜びと人々の姿に共感したからにはほかありません。

今、わたしたちが忘れかけている何百年と培ってきた郷土の伝統と歴史は教育の根幹に関わるものであるということ今から半世紀以前に柳田は強く感じていたにちがいません。

(参考資料:「日本の社会」「歴史教育について」「川崎市文化財調査報告46」)

先日、5月11日に川崎市民ミュージアムで市立小学校社会科研究会総会が開催され、そこで、ミュージアム学芸員の高橋典子氏の「西生田小学校における柳田国男社会科教育の実践」をテーマにした講演を聴くことができました。

大変興味のあるお話でしたので少し調べてみました。

「柿生文化」17号にも紹介させていただきましたが、柳田国男のお墓は生田の春秋苑にあります。また、柳田の著「炭焼日記」によるとたびたび、王禅寺など柿生周辺にも訪れています。そんな中で、川崎市



(柳田国男監修小学校社会科の教科書「日本の社会」:実業の日本社)



(柳田国男監修の国語の教科書:昭和29年)

トイレの考古学 II

----- 毎度キタナイ話ですみません -----

トイレの遺跡からわかる食生活

発見された

寄生虫卵↓



(回虫卵)



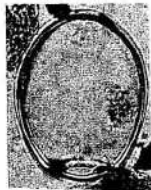
(鞭虫卵)



(有鉤条虫卵)



(肝吸虫卵)



(サナダムシ)



(肺吸虫卵)

トイレそのものの形態については、各遺跡からその形状からトイレであろうという予測ができます。また前号では「籬木(ちゅうぎ):くずら」の発見がトイレ跡の証拠にもなっています。最近では、顕微鏡の分析などで排泄物の一部が発見され、トイレ跡との立証にもなってきました。

実は、生活環境が大変よくわかる証拠となるものが大正8年に宮城県の仙台湾周辺の縄文中期の貝塚から発見されていました。それは「糞石(ふんせき)」と呼ばれるものです。簡単にいうと「ウンコの化石」です。「糞石」の中には、魚の骨・毛・繊維・種子・花粉・寄生虫卵などなどがあり当時の食事内容・調理法・健康状態などもよくわかってきました。この研究は長い間進みませんでしたでしたが、国際基督教大学の千浦美智子氏によって大きく前進することになりました。彼女は全国の糞石を収集し、自分や家族、犬も含め生のウンコを観察し、形状や内容物の状況から当時の食事の様子や健康状態などを比較研究しました。彼女は、昭和57年に若くして亡くなられ、その後この研究を引き継ぐ研究者もいないまま今日に至っています。

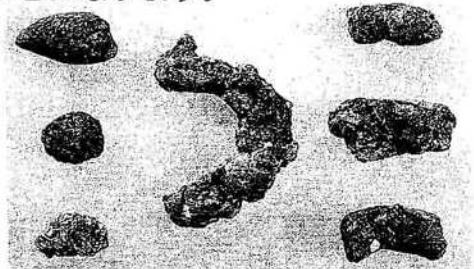
当時の人々の健康状態や食事の様子を知る一番の手がかりとなるものに「寄生虫卵」があります。「回虫卵」「鞭虫卵」が大量に検出される場合は、糞便で汚染された土壌中の野菜を食べることにより感染することが考えられ野菜の肥料として下肥(しもごえ:人糞を肥料にしたもの)が使われていたことがわかり、卵の量(1000個/1㎡以上)から周辺の人口が多かったということもわかります。「有鉤条虫卵」は家畜としてブタを飼い常食している場合に多く、本州では発見が大変少ないですが福岡県の筑紫館(平安時代初期:8世紀末~9世紀初め頃:現在の福岡県に外国の使節を迎い入れた施設の呼び名、後に鴻臚館:こうろかん:と呼ばれた)遺跡では大量に発見されています。これは、外国使節の食事に関する事で大陸の人々の食生活は肉食が多かったということがわかってきます。

比較的一般的なもので「肝吸虫卵」は、タニシに付いて幼虫がコイやフナに寄生し、それを生や半生で食べた場合に人体に寄生します。また「サナダムシ」はサケ・マスに入りそれを生や生焼で食べ人体に入ります。「肺吸虫卵」は、カワニナに付いた幼虫が淡水産のカニに入り、それを食べた人間に入ることになります。

こうして考えてみますとこの当時の人々は、魚に関しては刺身など生食が多く、加熱するにしても不十分なことも多かったのではないのでしょうか。

次回は、時代別に、別の視点でも考えてみたいと思います。

(参考資料:「月刊文化財」「考古学トイレ考」)



(糞石:ふんせき)

柿生・岡上の昔話 6話 「鉄火松」 (早野村)

昔、江戸時代のことです。早野と鉄(くろがね)の村境に古い立派な松の木がありました。早野村の人も鉄村の人もどちらもこの松を自分の村の松だといって聞きません。とうとう大喧嘩になってなっていました。そこで両村の名主が集まり話し合った結果とうとう相撲で勝負をつけようということになりました。

両方の村では、一番の力自慢を出し、たくさんの村人がいる中で相撲が始まりました。両力士とも互いに投げあっても勝負が付かず、がっぷりと四つに組んだまま動かなくなっていました。

ついに行司は引き分けとしてしまいました。

このことを聞いた近くの修験者(しゅげんじゃ:山奥で修業をする行者)が「それは鉄火(鉄を熱して真っ赤にしたもの)で勝負すれば必ずすぐに勝負がつく」と言いました。

さっそく両村では、誰の手のひらが厚いのかを話し合い、早野村では、鍛冶屋の金平が、鉄村では石屋の権六が選ばれました。

当日は両者が登場し、松の木の下では炭を積み上げ火を起し、修験者が呪文を唱え鉄の棒を左右に差がないように真っ赤に焼きました。この様子を見にきた村人はあまりのすごさに声も出ない状態でした。

やがて金平と権六は、同時に灼熱の鉄火の両端を握ると互いに引き合うではありませんか。両人の手からは白い煙が立ちブスブスと不気味な音と匂いをたてた瞬間、金平の力が強く鉄火に加わり、権六の手のひらから火花を散らして鉄火がすりぬけました。勝負は、はっきりとつき、早野村の金平の勝ちが決まりました。

これ以後この松は早野村のものとなり、その松は「鉄火松」と言われるようになりました。今は、この松は枯れて跡形もありません。

(参考資料「川崎物語集」)



第28回カルチャーセミナー開催される

多摩川対岸の同一地名の謎を解く 5/29 柿生郷土史料館

5月29日(日)折悪しく台風接近の悪天候のなか、日本地名研究所の鈴木茂子氏をお迎えして第28回柿生カルチャーセミナーが開催されました。

悪天候にもかかわらず多数の方が参加され、熱気あふれる講演会となりました。

多摩川流域には、川崎と東京をはさんで「等々力」「丸子」「瀬田」「宇奈根」などたくさんの同一地名が見られます。これらの多くは多摩川の氾濫によって川の流路が変化し、それに伴って村が多摩川によって分断され、同一地名が川をはさんで両岸に見られるようになりました。中には小舟を使って行ったり来たりという農家の方もいらっしたそうです。

『流路の変化によって所有場所に变化があった場合、地券の記載等はどうか』『万葉集には「多麻河伯」とあり、植物の「麻」との関係はあるのか』という質問が出されました。これについては次号に掲載いたします。



(講演される講師の鈴木茂子氏)

柿生郷土史料館開館のご案内

開館時間

開館：午前10時
閉館：午後3時

夏休みの休館日
7月10日(日)
7月17日(日)
カルチャーセミナー
7月24日(日)
7月31日(日)

夏休みの休館日
8月4日(木)
8月6日(土)
夏休みの休館日
8月18日(木)
8月20日(土)

夏休みの休館日
8月27日(土)
7/31は資料整備のため臨時休館
8/13は臨時休館日

柿生郷土史料館の7・8月の催物 (特別企画展) ※ 問い合わせ 988-0004 (社中夜)

第3回 特別企画展

■テーマ 「互版と新聞 江戸・東京の大地震」
で見える
■期 日 7月(日曜日)・8月(土曜日)・9月(日曜日)

(各種セミナー)

第6回 ガイドセミナー (特別企画展対応)

□テーマ 「大地震のメカニズムと防災」
□講師 大條 雅彦氏 (川崎市役所危機管理室)
□期 日 7月10日(日) 午後2時より
□内 容 大震災のメカニズムと地震に対する備えと知識について解説

第27回 カルチャーセミナー

□テーマ 「発見された相模川橋脚から 分かる歴史的事実」
□講 師 大村 浩司氏 (茅ヶ崎市教育委員会)
□期 日 7月24日(日) 午後2時より 大地震で延期となっていたセミナーです
□内 容 郷土の武将 稲毛三郎が亡き愛妻のために建立した相模川に架けた橋が出現。鎌倉時代の建築技術や文化財の保護について解説。

夏休み特別企画 (1) (2) こどもたち集まれ!

(1) 「体感 縄文時代」 8月4日(木) 10時~12時
土器・石器に触れてみよう・火起し体験

(2) 「地震の不思議」 8月17日(木) 10時~12時
なぜ地震は起きるの? 地震から命を守るには

第7回 ガイドセミナー (特別企画展対応)

□テーマ 「安政地震と関東大震災」 大災害になった理由は何か?
□講 師 柿生郷土史料館支援委員
□期 日 8月27日(土) 午前10時より
□内 容 安政大地震と関東大地震を展示品をもとにわかりやすく解説